

第1章

福祉用具活用の理念

第1節 高齢者・障害者の自立支援のための福祉用具

福祉用具利用者の特徴と利用環境別ニーズ



福祉用具利用者の特徴と利用環境別ニーズについて教えてください。

1 福祉用具の利用者とライフサイクル

人間はライフサイクル（一生の過程）および各ライフステージ（幼年期，少年期，青年期，壮年期，老年期等幾つかの分け方がある）を通して共通に必要なとする基本的な生活に必須な活動に加え，そのライフステージの折々において必要とされる活動がある。幼児期は人間の感覚や運動の統合がなされ，コミュニケーション能力を発達させる大事な時期である。それを経て学校教育を受けるようになり基礎学力を養い，さらに，中・高等教育を経て学力（知識や技術）のみならず社会性，思考方法他を習得し，社会に出て就労する。

障害はライフサイクルのあらゆるステージにおいて生じることが考えられ，福祉用具を考える際にも，ライフサイクルおよびライフステージの観点から幅広い年齢の対象者を考える視点を持つことが大切である。

2 福祉用具の利用者と障害特性

ライフサイクルとライフステージの側面から対象者を見ることに加え，人にはどの

障害者に対する情報支援



障害者に対する情報支援策には何がありますか。

ニーズの多様化に対応し，複合的な保健福祉支援が求められる昨今，情報サービスは，その潤滑剤として，なくてはならないものであり，利用可能な施設・サービス等の情報収集・提供に大きな期待が寄せられている（表参照）。

障害者の場合，視覚障害，聴覚障害等，情報の収集が通常の状態では困難な場合に，情報が容易に把握できる形に翻訳して提供する機関・施策等も情報サービスに含まれる。

情報は，多種多様な形態をとっており，それらのもとの情報の形を，専門職が加工・処理することにより初めて有効となる。

加工・処理機能を情報サービスに組み込むことにより，対象者が，必要な際，必要なだけ，容易に利用可能な情報サービスが実現されると言えよう。

第5章

福祉用具のコーディネート(ケアマネジメント)

第1節 福祉用具のケアマネジメントの考え方

福祉用具ケアマネジメントの基本



福祉用具ケアマネジメントの基本は何ですか。

福祉用具ケアマネジメントの基本は、「エンパワメント」とそれを支える当事者主体の「ネットワーキング」である。

ケアマネジメントには、自立あるいは自律に向けたサポートが重視される。そこでエンパワメントは決して欠かすことのできない理念となる。

さらに当事者を中心とし、家族、地域と多くの専門職が真に一体となって取り組む「ネットワーキング」の考え方は、ケアマネジメントの牽引車としての役割を果たすものである。

当事者「自らが生活力をつける」ためのサポート、この「自らが力をつける」ことがまさにエンパワメントである。そしてネットワーキングは、当事者、地域住民、さまざまな専門職をつなぎ、当事者の参加と選択を充分に実現していく要となる考え方である。

1 ケアマネジメントとネットワーキング

ケアマネジメントにおいては、ネットワーキングが必須である。それは、ニーズの多様化にとまない、生活の質の向上を目指した日常生活全般をサポートする包括的な

表-3 マトリックス1：障害構造別に福祉用具の使用目的および機種に着目した

福祉用具 使用目的 障害構造 機種(例)	福祉用具の							
	移動			セ ル フ ケ				
	起居	移乗／歩行		食事	排泄	入浴	整容	更衣
		屋内	屋外					
	アコーデ オン・ロー ラー（座位 保持）、ク ッション チェア（座 位保持い す）、ベ ッド、ガ ッチ アップ機 能付ベ ッド、エ アマ ット レス等	移乗用バー、電動 式据置型リフ ター、自立補助 手すり、手すり、 移乗台、浴槽リ フト、双方向エレ ベーター、天 井走行リフト、 固定式リフター、 交互式ウォ ーカー、4脚杖 等	歩行補助車、 シルバーカー、 テイルト式折 りたたみバ ギー、段差解 消リフト、ば ね式長下肢装 具等	すくいやす い皿、姿勢 コントロール 可能な車 いす、シリ コン製ス プーン、棋 食用スプ ーン、嚥下食、 増粘剤、回 転式のお膳、 片麻痺用箸 等	ポータブル トイレ、便 器配置、自 動洗浄機能 付ポータブ ルトイレ 等	エレクター型す のこ、浴槽用 手すり、入 浴台、浴槽 内台、シャ ワーポン プ、ミスト サウナ、エ ア注入式防 水栓等		
I 身体障害								
①視覚障害								
②聴覚障害								
③音声・言語または そしゃく機能の障害				751頁,757頁, 1901頁, 1921頁				
④肢体不自由（上肢 ・下肢・体幹）	861頁, 863の51頁, 865頁,869頁, 901頁,1067頁	167頁,901頁, 906頁,1001頁, 1011頁,1031頁, 1037頁,1051頁, 1057頁	1031頁,1051頁, 1301頁,1307頁, 1331頁,1335頁, 1351頁	751頁,757頁, 901頁,1335頁, 1351頁,1501頁	865頁,901頁, 1057頁,1505頁, 1509頁	901頁,1301頁,1601頁, 1607頁,1611頁,1615頁, 1671頁	1651頁	1657頁
⑤内部（内臓の機 能）障害					1801頁			
A 発達								
B 加齢	865頁	901頁,1031頁, 1037頁	1031頁,1037頁, 1301頁,1307頁	901頁	866頁,901頁	901頁,1301頁,1601頁, 1607頁,1611頁		
II 知的障害	863の51頁, 865頁		1331頁	1501頁,1901頁, 1921頁				
III 精神障害(高次脳 機能障害・痴呆含む)		1011頁						
IV 複合障害	865頁		1331頁	1501頁				

マトリックス

使 用 目 的									
ア		コミュニケーション				IADL	余暇活動	介護予防	仕事(学習)
安全	健康管理	話す	読む	書く	聞く	家事			
視覚障害者用屋内信号装置、火災警報器、酸素吸入器、ペースメーカー等	盲人体温計、音声体温計、リハビリ関連機器等	聴覚障害者用通信装置(ファックス)、難聴者用電話機、スピーチカニューレ、トーキングエイド等	拡大読書器、画面拡大ソフト、点字器、点字タイプライター、画面読み上げソフト、点字ディスプレイ、点字プリンター等	視覚障害者用パソコンソフト、視覚障害者用パソコン周辺機器、視覚障害者用可搬型情報機器、コミュニケーション・エイド、マウススティック等	聴覚障害者用屋内信号装置、火災警報機、耳掛型補聴器等	環境制御装置	スポーツ・レクリエーション用具、競技用具	運動機器、日常生活用品(タオル、ポリ袋、座布団など)	パソコン用マウス、リクライニング式電動車いす
201頁	303頁	314頁, 351頁, 371頁	201頁, 314頁, 351頁, 371頁, 401頁	201頁, 314頁, 351頁, 371頁	201頁, 314頁, 351頁, 371頁	303頁	451頁		
201頁		314頁, 351頁	201頁, 314頁, 351頁	201頁, 314頁, 351頁	201頁, 314頁, 351頁, 601頁				
		831頁, 843頁, 866頁							
	1615頁	831頁, 849頁, 866頁		1051頁, 1335頁, 1615頁, 1671頁		1701頁	1051頁, 1615頁, 1709頁, 1731頁		1721頁, 1741頁, 1751頁
1807頁, 1813頁									
							1731頁		1741頁, 1751頁
							1709頁	3501頁, 3531頁	
							2001頁		2001頁
201頁		314頁, 351頁	201頁, 314頁, 351頁	201頁, 314頁, 351頁	201頁, 314頁, 351頁				

肢体不自由【IADL】

関節リウマチ者の調理・食事動作自立を 図るための福祉用具導入

◎事例のフェース

障害構造	障害分類（福祉法）	身体障害
	機能障害 （障害部位・症候）	上肢機能障害（手指巧緻動作障害）
	障害程度	身体障害者手帳3級
原因となった傷病名	a) 機能障害の直接的な原因となった傷病 b) 合併症／障害に影響する病態	a) 関節リウマチ
福祉用具の導入	使用目的	調理動作の自立，食事動作の自立
	福祉用具分類	補完福祉用具
	機種／環境調整	自助包丁，フードカッター，水道栓まわし，電動缶切り，ビン用ふた開け器，握り部分の太いスプーンやフォーク
	結果（支援実施状況）	調理動作，食事動作
対象背景	性別	女性
	年齢階層	40歳代
	世帯構成	夫・子ども1人と同居

1 概要（疾病，ADL）

30歳代で発病し，現在48歳になる主婦である。平成4年10月，右親指の痛みと腫れが突然出現したが，突き指と思い放置していた。2週間のうちに，他の手指や手首の関節にも痛みと腫れが出現したため，近医を受診したが，病名は不明で様子を見るようにいわれ我慢していた。平成5年2月，別の医療機関を訪れ，血液検査とX線検査の結果，関節リウマチと診断された。直ちに，薬物療法の治療（非ステロイド抗炎症薬）を受けることになった。